

令和5年度

栄養管理における多職種間連携 強化支援事業研修会

令和5年10月2日(月)
13:30~15:30

檀原総合庁舎101会議室

**「栄養サマリー」運用の経緯
及び
多職種連携強化支援事業における
アンケート結果**

調査期間：令和5年6月～7月

中和保健所

1. 「栄養サマリー」運用の経緯

2. 令和5年度のアンケート調査結果の概要報告

2-1. 「栄養サマリー」の運用に関するアンケート結果

2-2. 「食支援」に関するアンケート結果

栄養管理における多職種間連携強化支援事業ワーキング委員

～平成27年度

平成28年度～

令和4年度～

背景

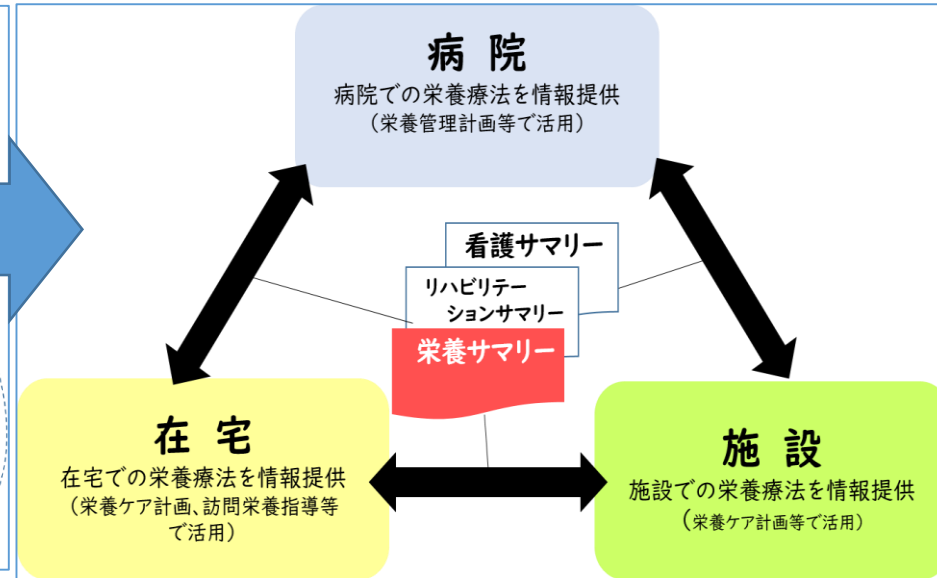
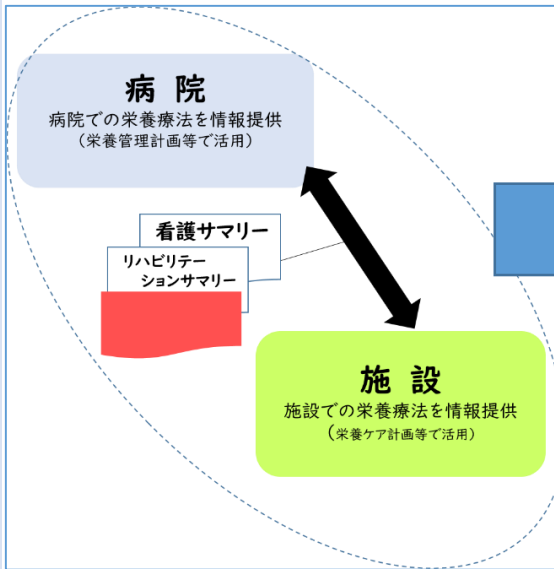
(事務局)
葛城保健所

・病院から施設入所や施設から入院する際の、食事の内容、形態、栄養状態等の継続した栄養管理を行うための共通伝達ツールが必要

・在宅療養者や要介護者の増加
・住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要

体制

●葛城集団給食管理研究会で検討し栄養サマリーや食事形態一覧表を作成



所属

病院・高齢者施設

病院・高齢者施設 + 地域包括支援センター★
・居宅介護支援事業所★・訪問看護ステーション★

職種

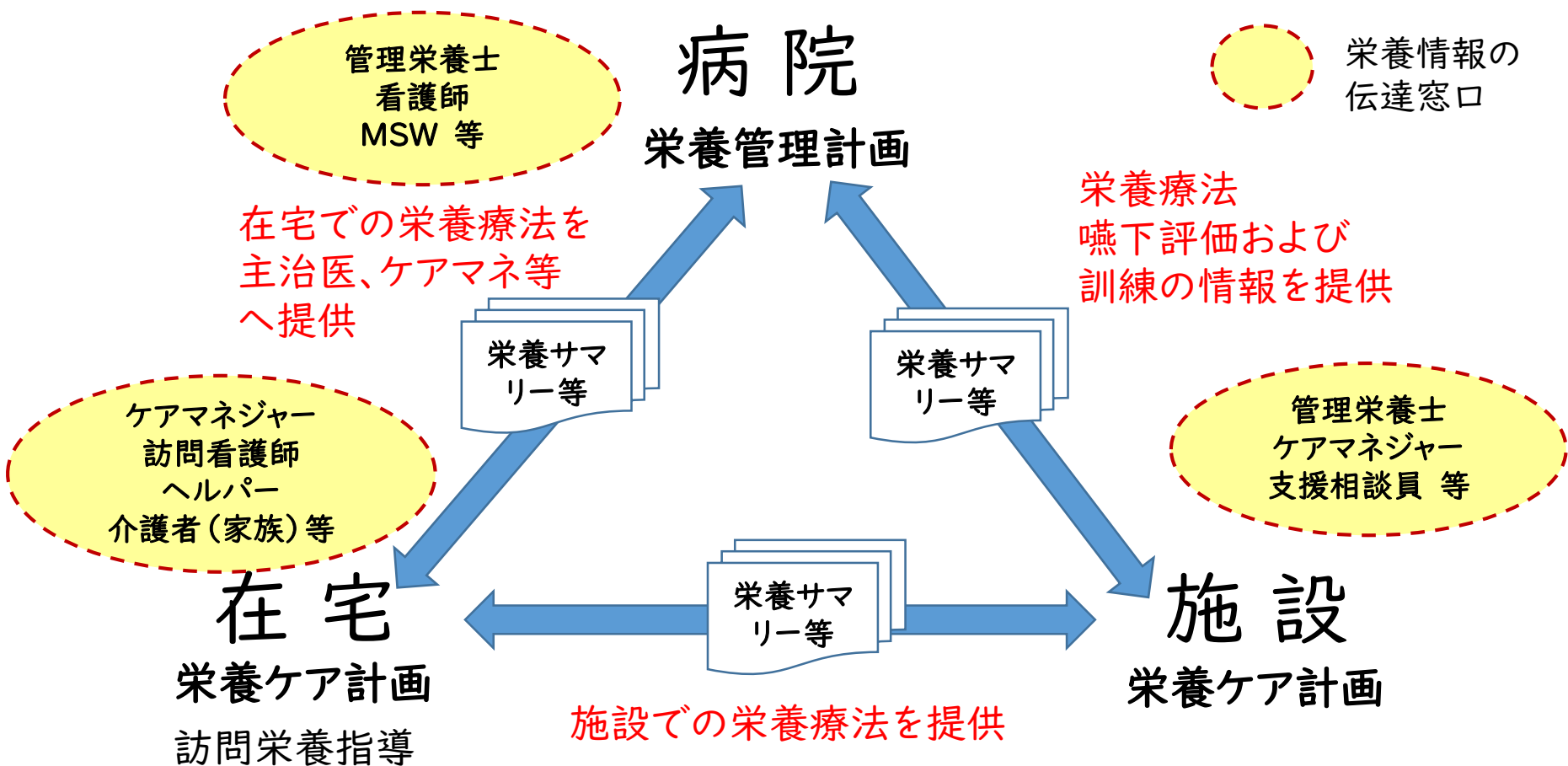
管理栄養士・栄養士

管理栄養士・栄養士
+ ケアマネジャー★・看護師★

(★:東和医療圏)

医療から介護までの一貫した栄養管理

病院や介護・福祉施設等の療養者の栄養管理情報を相互に活用できるツール（以降「栄養サマリー等」）を作成し、急性期から回復期、在宅復帰まで栄養サマリーを活用することにより継続した栄養管理の提供をめざす。



保健所が連携体制の構築を支援

「栄養サマリー等」を活用した 病院と介護・福祉施設の継続した栄養管理の取り組み！

目的

在宅療養者や要介護者が増加する中、療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供され、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要である。

そこで、保健所と管内の病院と介護・福祉施設が連携し栄養サマリー等を作成し、効果的に活用することにより療養者の適切な栄養管理システムの構築を図る。

平成28年度

平成29年度

平成30年度

栄養サマリーの検討

- ワーキング会議の開催
・栄養サマリー等や食形態一覧表の作成。
・効果的な運用方法の検討
- 研修会の開催
栄養士・管理栄養士と連携した地域包括ケアシステム」

モデル施設による 運用と見直し

- 病院や介護・福祉施設等でモデル運用(12施設)
- ワーキング会議の開催
・アンケート調査の集計、課題の明確化。
・栄養サマリー等の見直しや効果的な運用方法等の検討。
- 研修会の開催
医療から介護まで、多職種が連携した栄養・食生活支援を目指して

栄養サマリーの運用 施設の拡大

- ワーキング会議開催
- 栄養サマリー等新様式の配布
- 栄養サマリー等活用後の実績報告
- 栄養サマリー等の運用施設の拡大を目指したアンケート調査の実施
- 研修会の開催

栄養サマリー運用施設数

7

12

「栄養サマリー等」を活用した 病院と介護・福祉施設の継続した栄養管理の取り組み2

目的

在宅療養者や要介護者が増加する中、療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供され、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要である。

そこで、保健所と管内の病院と介護・福祉施設が連携し栄養サマリー等を作成し、効果的に活用することにより療養者の適切な栄養管理システムの構築を図る。

令和元年度

令和2年度

令和3年度

他職種への 栄養サマリーの周知

- ワーキング会議の開催
- ・効果的な運用方法の検討
- ・他職種に周知するためのチラシ作成及び配付場所の検討
- ・栄養サマリー運用アンケート調査の内容検討
- チラシの配布
- アンケート調査の実施

24

栄養サマリー活用状況と 今後に向けた検討

- 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止
- アンケート調査の実施
 - ~~○ワーキング会議の開催~~
 - ~~・効果的な運用方法の検討~~
 - ~~・アンケート調査結果分析~~
 - ~~・他職種に周知するためのチラシの見直し及び配付場所の検討~~

38

栄養管理における多職 種間連携強化

- ~~○ワーキング会議開催~~
- ~~○研修会の開催~~
- アンケート調査の実施
- 東和医療圏ケアマネ・訪問看護師等への説明・実態調査

51

7

栄養管理における多職種間連携強化支援事業

目的

在宅療養者や要介護者が増加する中、療養者が医療機関や介護・福祉施設等で受けた栄養管理や食生活サービスが途切れることなく提供され、住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりが必要である。

そこで、保健所と管内の病院と介護・福祉施設が連携し栄養サマリー等を作成し、効果的に活用することにより療養者の適切な栄養管理システムの構築を図る。

令和4年度

令和5年度(予定)

令和6年度(予定)

多職種・在宅への 栄養サマリーの周知

- ワーキング会議の開催
 - ・東和医療圏のケアマネ、訪問看護師等含むワーキング委員の選定
 - ・令和元年～3年度アンケート調査結果分析
 - ・栄養サマリーの多職種・在宅栄養管理における活用検討(様式、解説書)
- 西和(3町)、中和地区への展開
- 研修会の開催
- アンケート調査の実施

35

他医療圏への展開

- ワーキング会議の開催
- 中和地区等への展開
- 研修会の開催
- アンケート調査の実施

40

栄養サマリーの運用 施設の拡大

- ワーキング会議の開催
- 御所・檀原・高市地区への展開
- 研修会の開催
- アンケート調査の実施

1. 「栄養サマリー」運用の経緯

2. 令和5年度のアンケート調査結果の概要報告

2-1. 「栄養サマリー」の運用に関するアンケート結果

2-2. 「食支援」に関するアンケート結果

2-1.「栄養サマリー」の運用に関するアンケート結果

| | |
|------|---|
| 実施時期 | 2023年6月～7月 |
| 調査対象 | <ul style="list-style-type: none">●中和保健所管内の特定給食施設等に勤める管理栄養士・栄養士、その他職種（看護師、介護士、ケアマネジャー等）（～R4までは管理栄養士・栄養士のみを対象に実施）●126施設（30病院、24介護老人保健施設、54老人福祉施設、13社会福祉施設、5その他） |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none">●栄養サマリ－の運用状況●栄養サマリ－の依頼状況および件数●栄養サマリ－の提供状況および件数●多職種連携状況●気軽に相談できる専門職種●在宅の食支援に関する認識●在宅の食支援への対応 |
| 回収数 | 「栄養士用」59.5%（回収 75施設/配布 126施設） →n=75 「多職種用」38.1%（回収 48施設/配布 126施設） →n=50 |

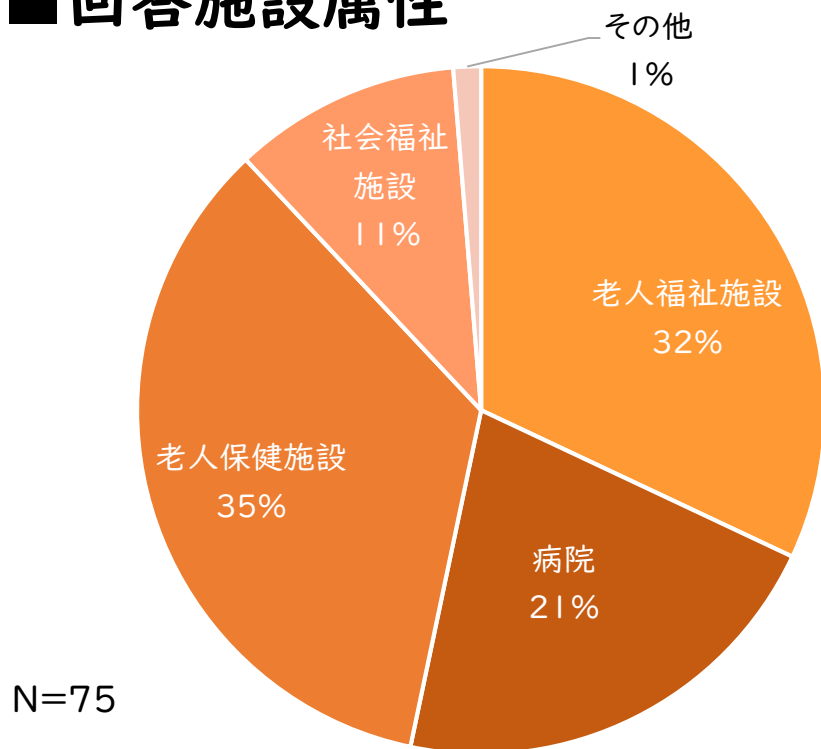
回答率、回答施設属性、回答者の内訳

■回答率 「栄養士用」59.5% (回収 75施設/配布 126施設)

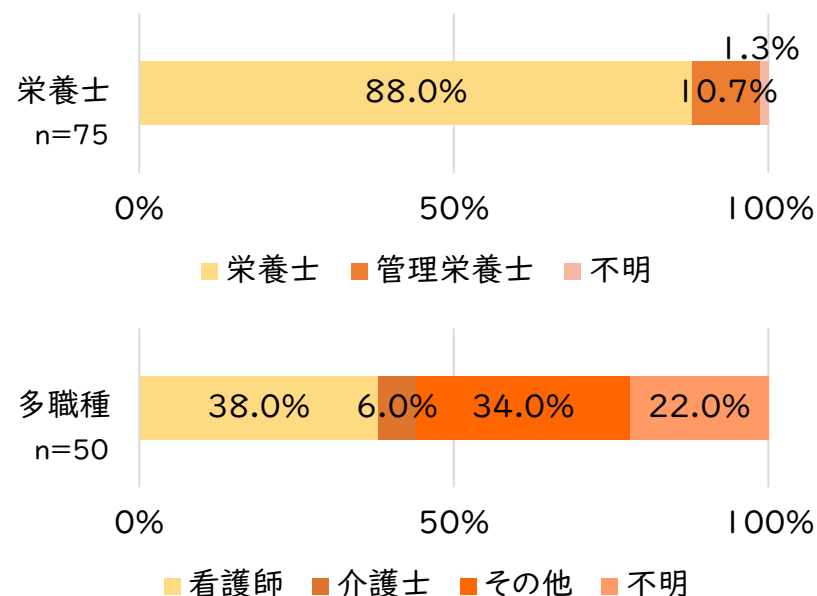
「多職種用」38.1% (回収 48施設/配布 126施設)

■回答方法 (電子申請での回答 2施設:FAX等での回答 73施設)

■回答施設属性

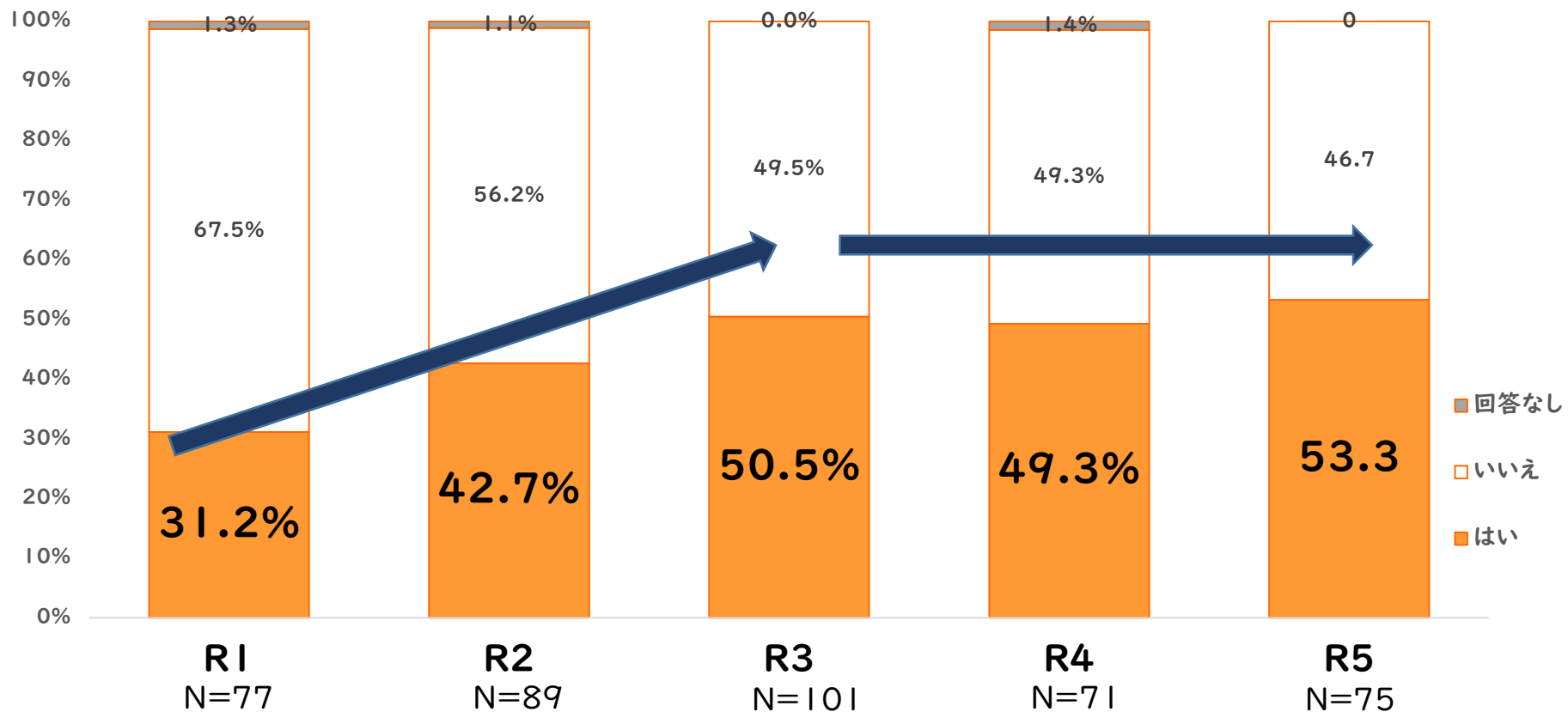


■回答者の内訳



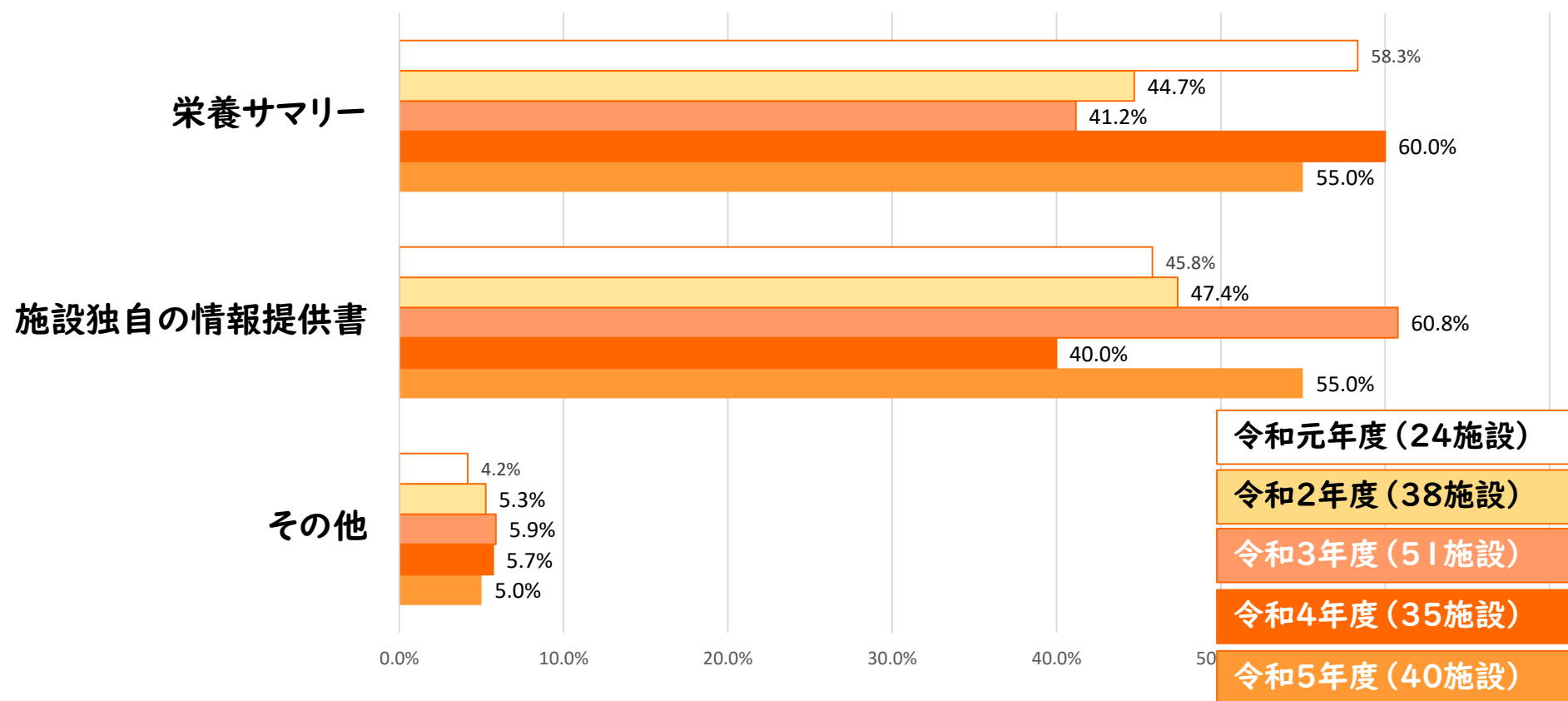
その他の施設: サービス付き高齢者向け介護住宅

1. 「栄養の情報に特化した情報提供書（看護サマリー等を除く）」の運用をしていますか



- 令和元年度から令和3年度にかけて「栄養の情報に特化した情報提供書（看護サマリー等を除く）」の運用をしている施設が増加。令和3年度から令和5年度にかけては横ばい。
- 令和元年度31.2%(24施設)、令和2年度42.7%(36施設)で、令和5年度調査では53.3%に増加している。

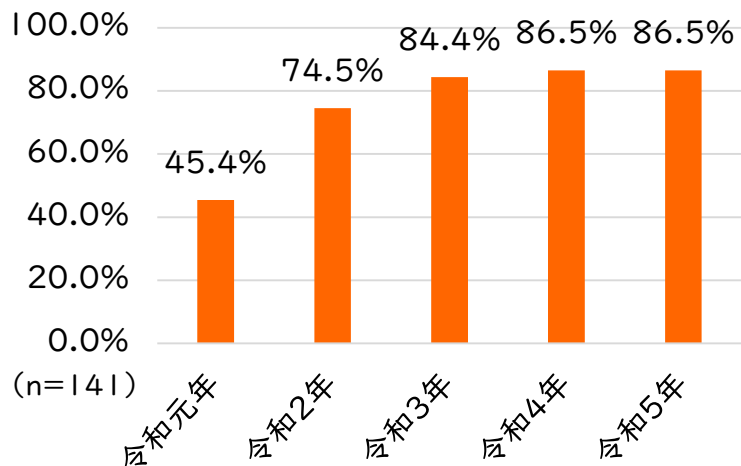
運用している情報提供書の種類 (重複回答あり)



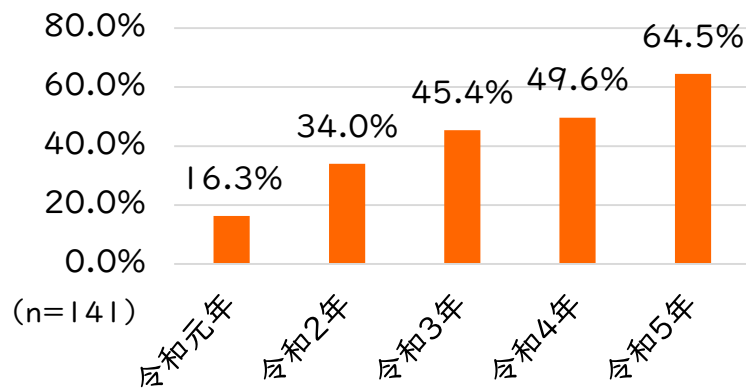
●「栄養情報に特化した情報提供書」を運用している施設のうち、栄養サマリーを活用している施設は55%であり、過半数である。その他施設独自の提供書を運用している施設も同程度いた。

栄養サマリーの認知率、運用率の推移

栄養サマリーの認知率



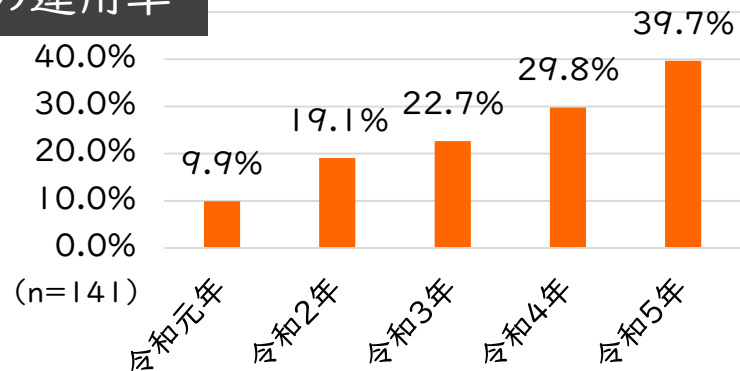
栄養に関する情報提供書の運用率（看護サマリーを除く）



※栄養サマリーの認知率とは、毎年実施する『「栄養サマリー」の運用に関するアンケート』において、アンケートの回答があった施設の累積

●栄養サマリーの認知率は年々向上しており、中和保健所管内の施設については、必要な施設に認知してもらえている。

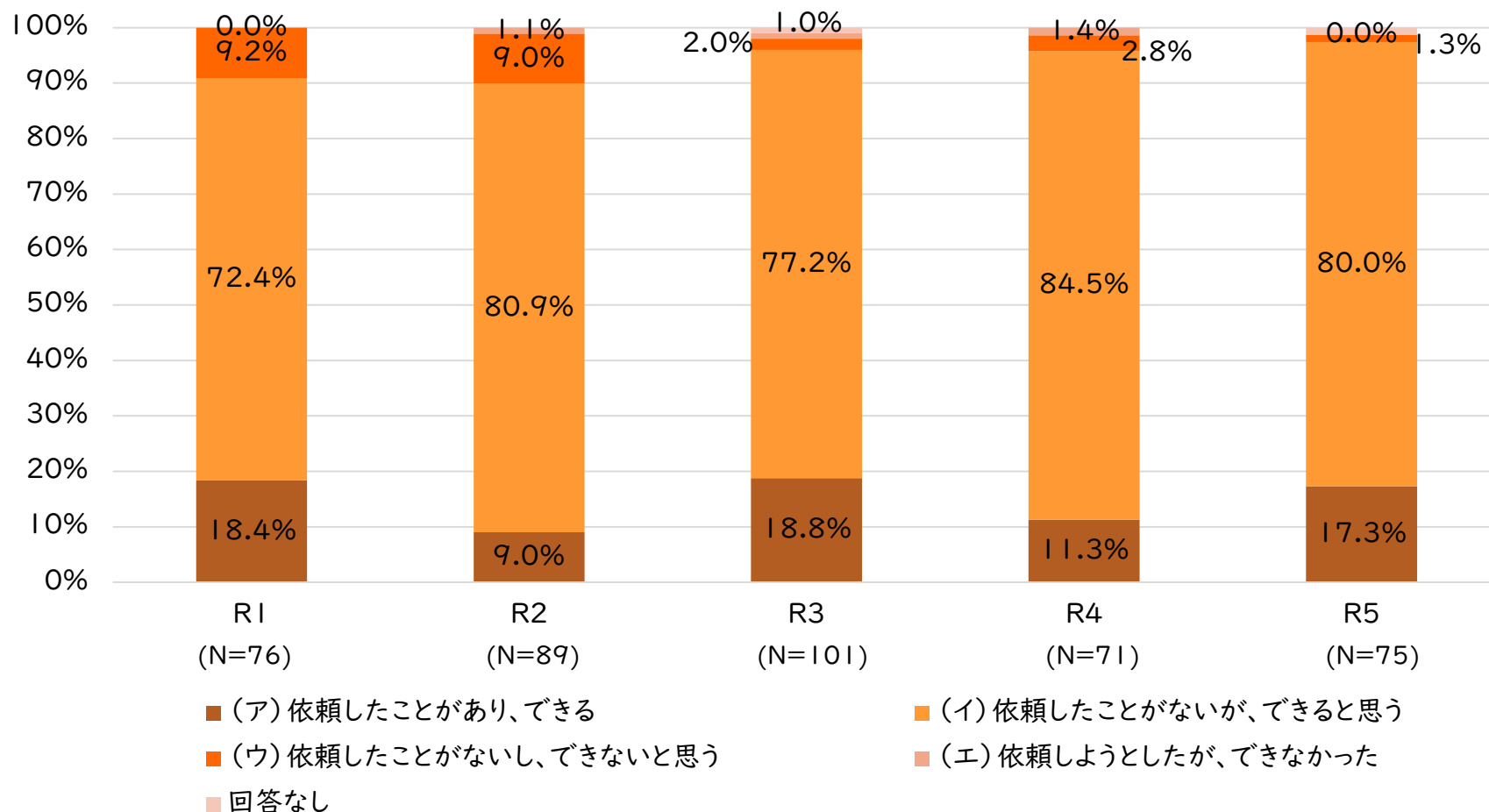
栄養サマリーの運用率



※栄養サマリーの運用率とは、毎年実施する『「栄養サマリー」の運用に関するアンケート』において、栄養サマリーの運用（情報提供書）がありと回答があった施設の累積

●栄養サマリーの運用率も年々向上しており、令和5年度においても14の施設が新たに運用していると回答した。

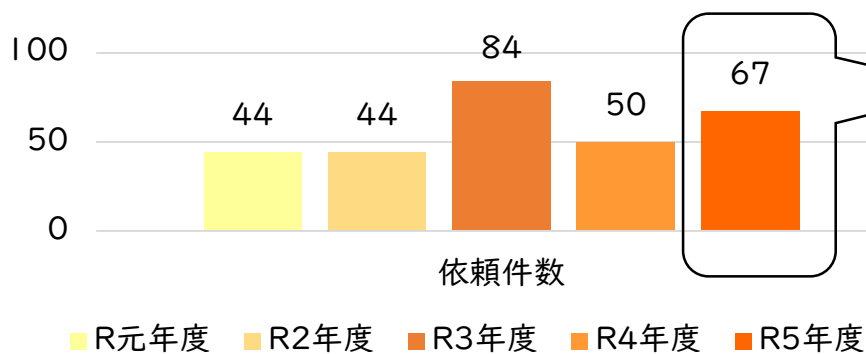
2. 貴施設から「栄養サマリー」を依頼できますか①



● 令和元年、2年には「依頼したことがないし、できないと思う」と回答した施設が10%弱いたが、令和3年以降、減少した。令和5年の調査ではほぼすべての施設が「できると思う」と回答した。

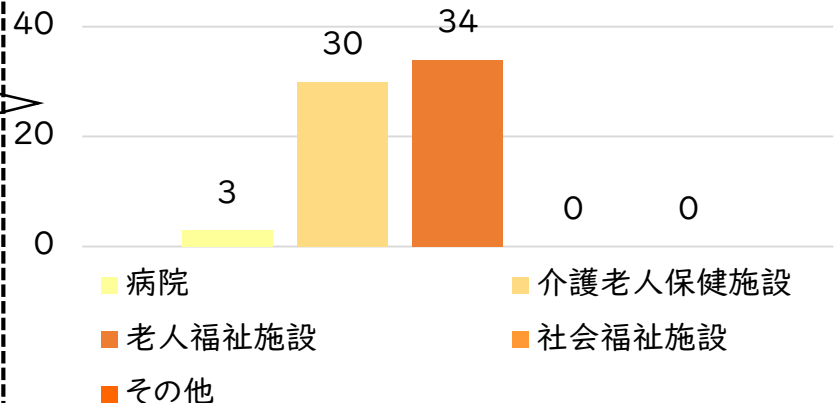
2. 貴施設から「栄養サマリー」を依頼できますか②

依頼件数の総数

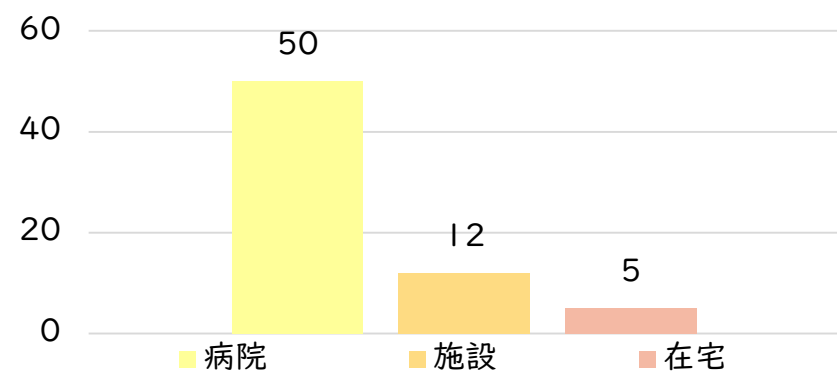


- 依頼件数はR3年度で増加した後、年度によって多少の変動はあるが、同程度（R5は67件）。
- 依頼元施設種別では「介護老人保健施設」、「老人福祉施設」が多い。
- 依頼先施設種別では「病院」が最も多い。

◆ R5年度のうち、依頼元施設種別



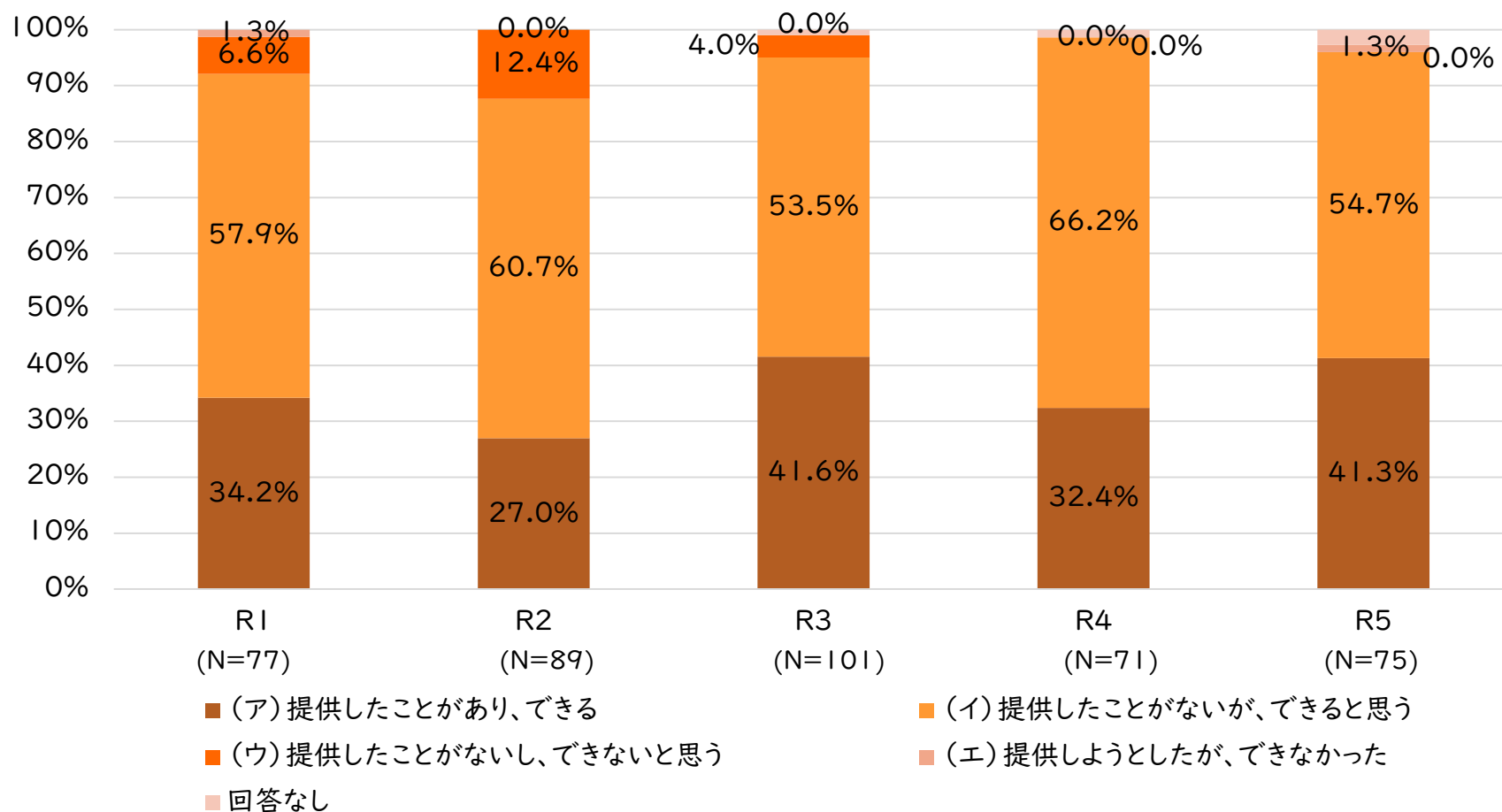
◆ R5年度のうち、依頼先種別



「(ウ) 依頼したことがないし、できないと思う」と回答した理由

- 独自の情報提供書がある所は難しいと感じます。(老人福祉施設)

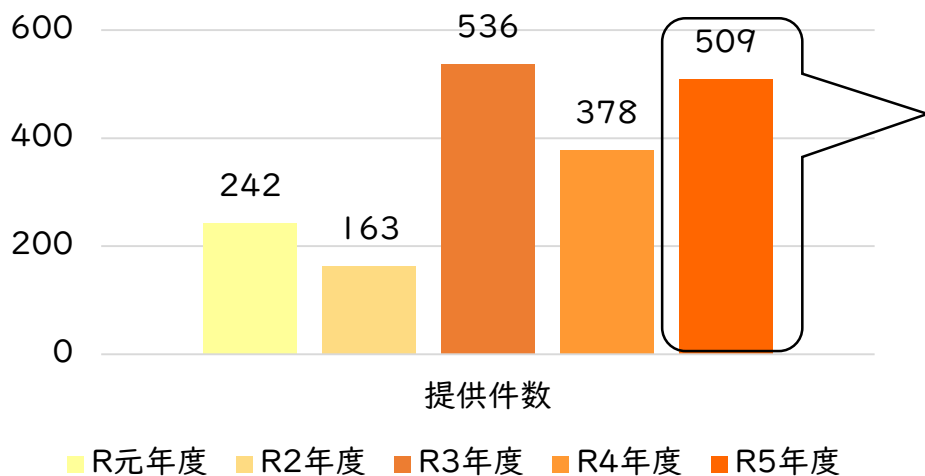
3. 貴施設から「栄養サマリー」を提供できますか①



●直近3年ではほぼ全ての回答者で提供することが「できると思う」と回答しており、必要だと思われるケースでは提供可能な環境になったことが分かる。

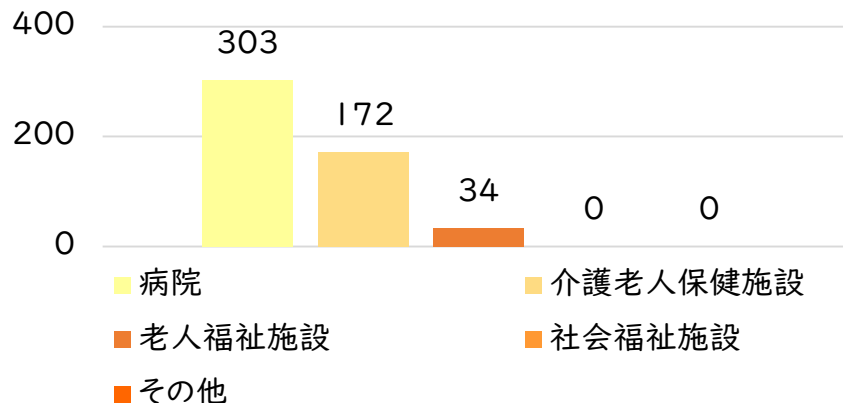
3. 貴施設から「栄養サマリー」を提供できますか②

提供件数の総数

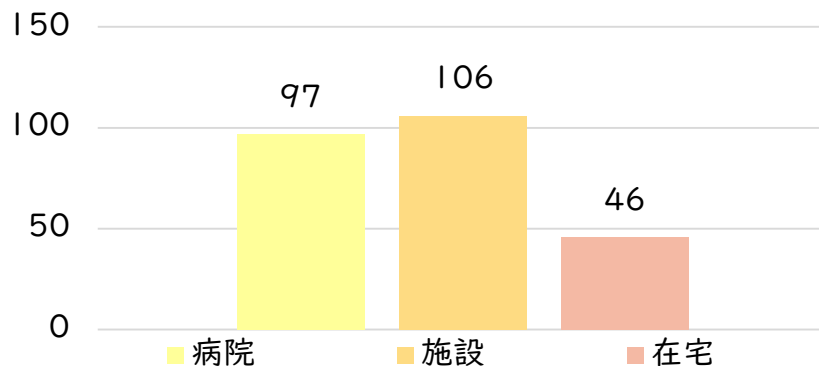


- 提供件数はR3年度で増加した後、年度によって多少の変動はあるが、同程度(R5は509件)。
- 提供元施設種別では「病院」、「介護老人保健施設」が多い。
- 提供先施設種別では「施設」、「病院」が多い。

◆R5年度のうち、提供元施設種別



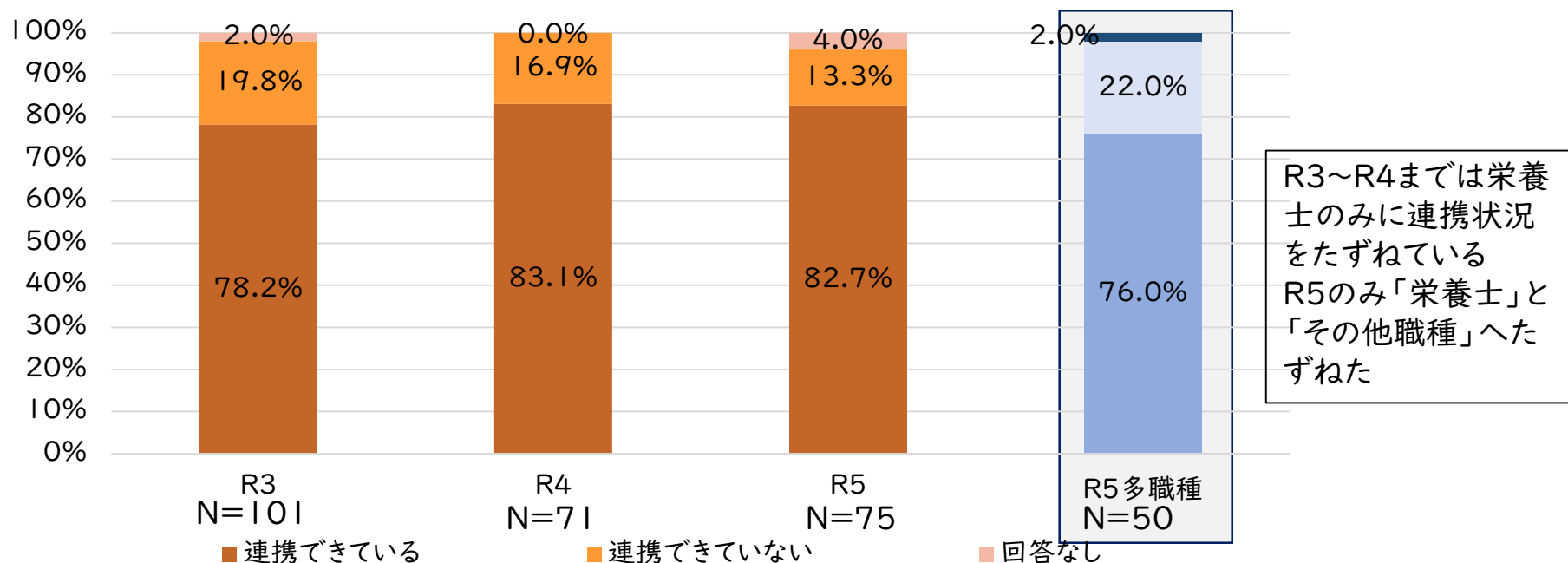
◆R5年度のうち、提供先種別



「(ウ) 提供したことがないし、できないと思う」と回答した理由

- 現状で問題ないと感じるため。(社会福祉施設)

4. 栄養サマリーを定着させていくには、多職種連携が重要だとされています。貴施設では連携できていますか



- 8割以上の施設が、「多職種連携ができている」と回答していた。
- 栄養士と比較すると多職種で「多職種連携ができている」と回答した割合は低かった (有意差なし $p=0.220$ χ^2 乗検定)
- 連携できていない理由は次スライド参照

4. 栄養サマリーを定着させていくには、多職種連携が重要だとされています。貴施設では連携できていますか

多職種連携ができない理由

栄養士

- 情報共有がされていない
- 現在運用をしていない事や、施設独自の情報提供書があるため
- 他職種に、サマリーの必要性や周知ができていない。
- 運用されていないが、運用する場合は看護師等の連携は必須
- 栄送サマリー自体をなかなか見る事がない
- 現在運用していないため
- サマリーを作成する際は栄養士サイドで情報を集めているため

- 栄養管理に関して、多職種連携を必ずしも必要としていない
 - 多職種に理解されていない
- などの意見があった

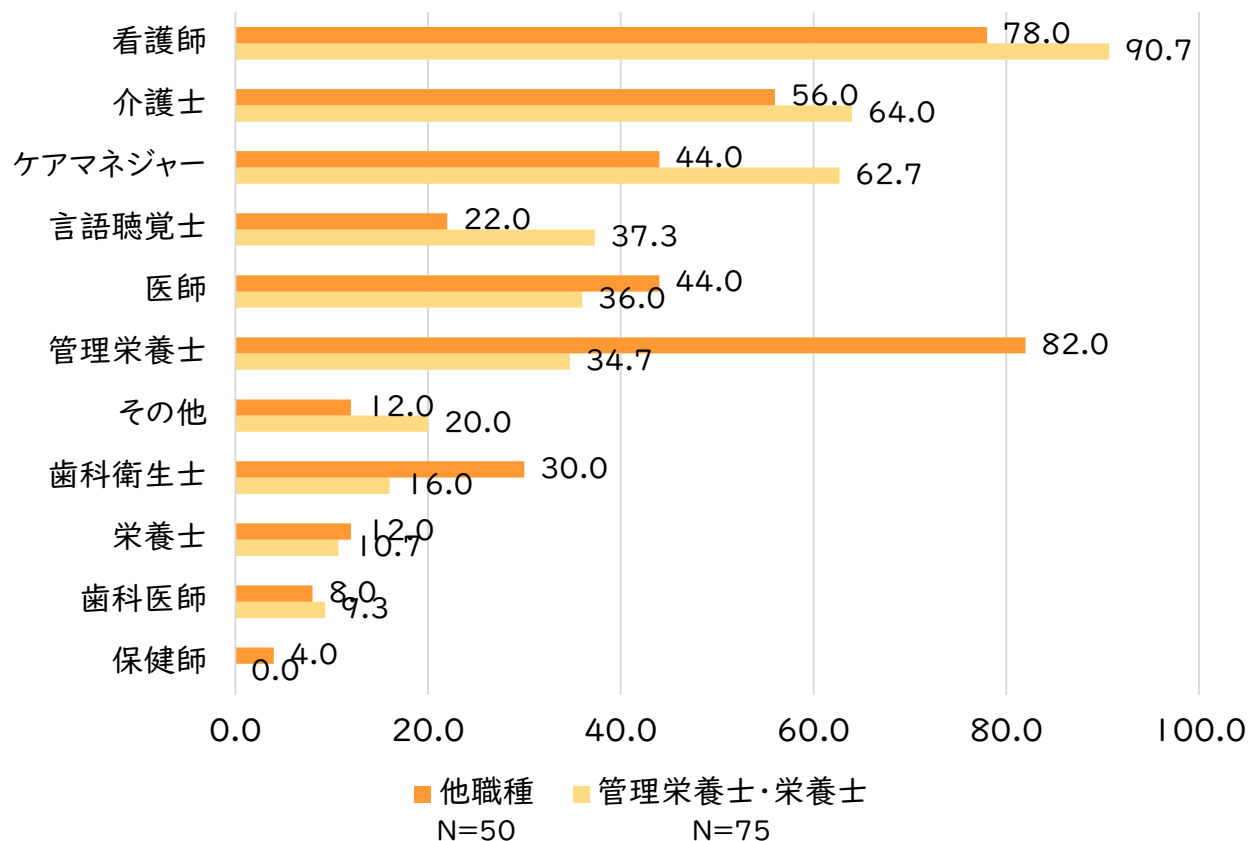
多職種

- 業務多忙につき
- 栄養サマリーの存在が周知されていない
- 情報共有のあり方が不十分なため。
- 栄養サマリーを知らない
- 栄養サマリーを栄養士以外との共有はあまり行っていない
- なかなか個々に沿った栄養管理が出来ていなく、連携して協議する事に至っていないのが現状
- 栄養士に一任しているため
- 私自身がサマリーを十分に活用できていないため。

- 業務多忙
 - 栄養サマリーの認知度が低い
- などの意見があった

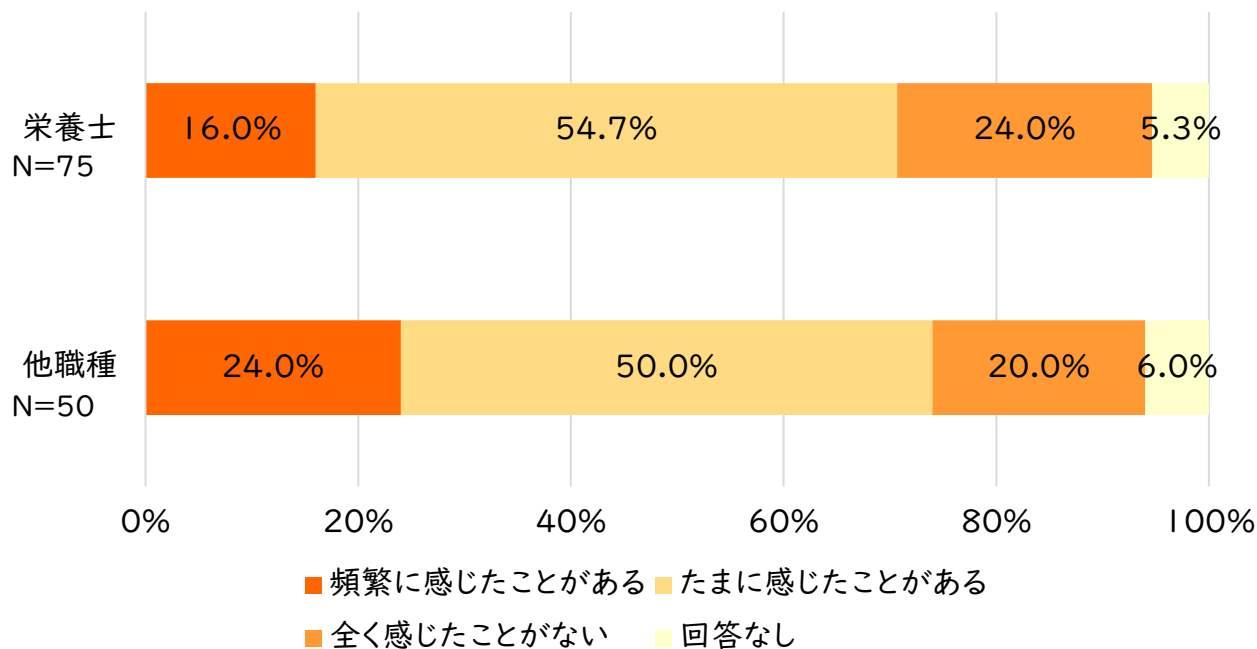
5. 気軽に相談ができる専門職種を教えてください

(複数回答可)



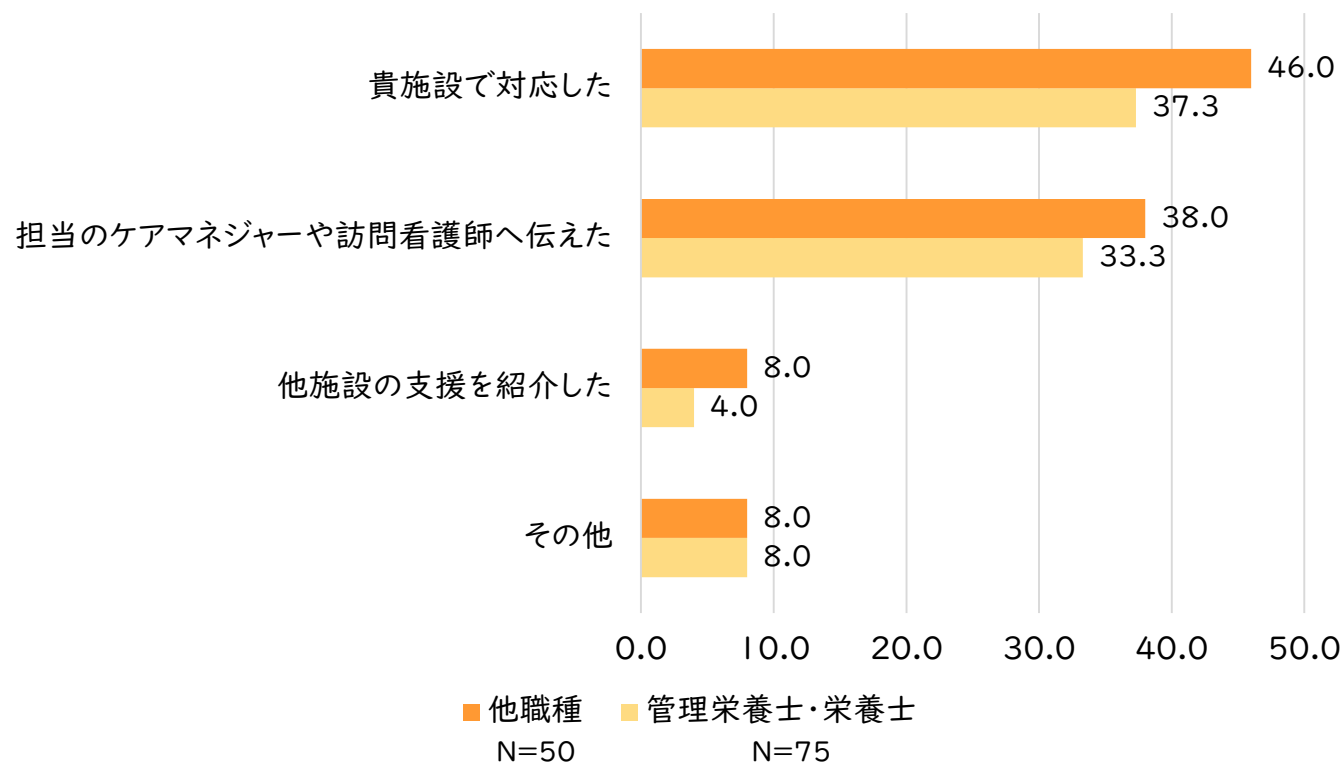
- 栄養士、その他職種ともに「看護師」、「介護士」、「ケアマネジャー」を「気軽に相談ができる専門職種」として回答した割合が高かった。
- 栄養士は、「看護師」、「介護士」、「ケアマネジャー」と回答した割合が他職種と比較して高かった。
- 他職種は、「管理栄養士」を「気軽に相談できる専門職種」として回答した割合が最も高かった。

6. これまでのお仕事の中で、多職種連携による「在宅の食支援」が必要であると感じたことはありますか



● 栄養士では70.7%、他職種では74.0%が「多職種連携による『在宅の食支援』が必要である」と感じていた。

7. 「在宅の食支援が必要であると感じた場合に」 どのような対応をしましたか。



●「貴(自身の)施設で対応した」が最も多く、次いで「担当のケアマネジャーや訪問看護師へ伝えた」が多かった。

まとめ

- 「栄養サマリー」の認知率は年々向上しており、栄養士においては約9割の施設で認知されている
- 「栄養サマリー」を「依頼できる」、「提供できる」とほぼすべての施設が回答しており、「栄養サマリー」が必要なケースでは運用されていることが分かる
- 相談できる専門職種は、栄養士では、「看護師」、「介護士」、「ケアマネジャー」と回答した割合が高かった。多職種では「管理栄養士」、「看護師」、「介護士」と回答した割合が高かった。
- 栄養士、その他職種に関わらず在宅における食支援の必要性を感じている割合は7割以上と高く、その後の支援も自施設または担当のケアマネジャーや訪問看護師に相談しているケースが多かった。

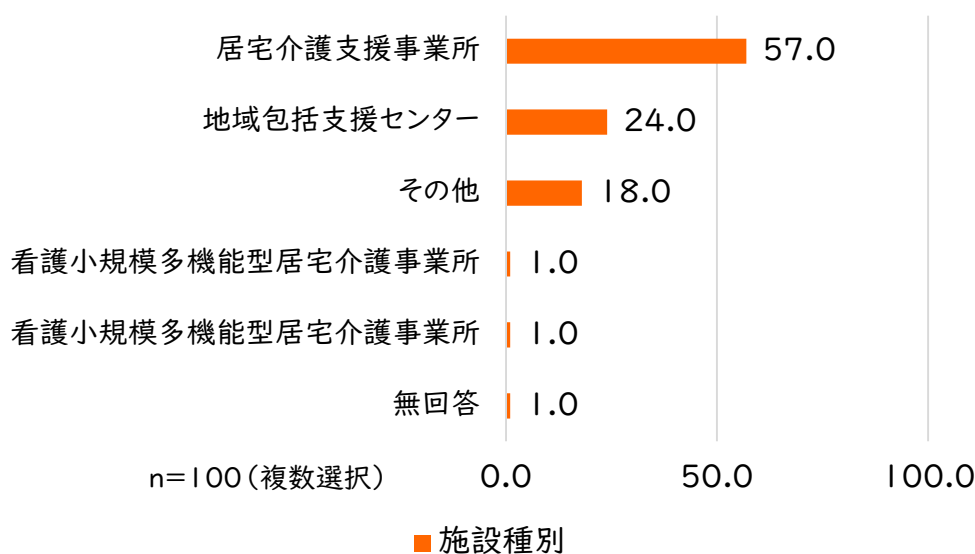
2-2.「食支援」に関するアンケート結果

| | |
|------|---|
| 実施時期 | 2023年6月～7月 |
| 調査対象 | <ul style="list-style-type: none">●中和圏域(大和高田市、香芝市、葛城市、広陵町)の関係機関 市町 介護保険担当課:4市町 地域包括支援センター:7か所 小規模多機能型居宅介護事業所:2か所 看護小規模多機能型居宅介護事業所:2か所 居宅介護支援事業所:85か所 ●対象職種 ケアマネジャー、看護師、介護士、その他関係職種 |
| 調査項目 | <ul style="list-style-type: none">●「食支援」の必要性の認知●「食支援」課題への対応●「栄養サマリー」の認知●「栄養サマリー」の様式が理解できるか●「栄養サマリー」等情報提供書の運用状況●栄養サマリーの依頼状況●必要と感じる食支援●相談できる職種 |
| 回収数 | 64.0%(64施設 / 100施設) |

回答率、回答施設属性、回答者の内訳

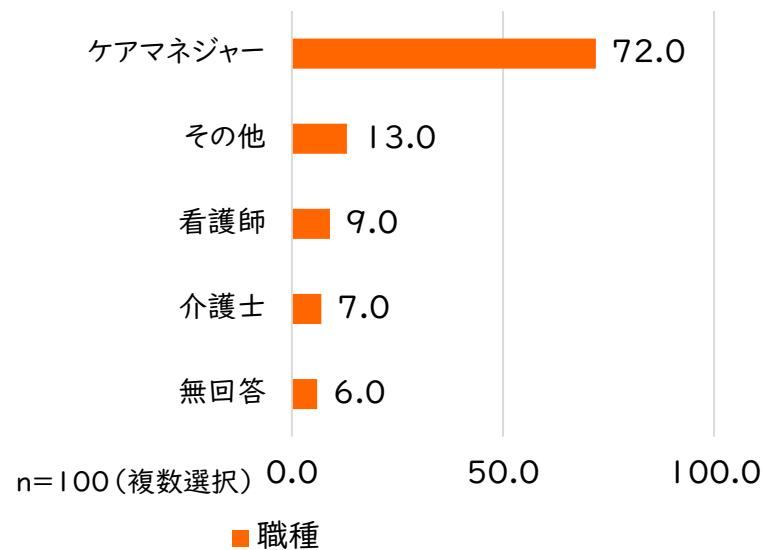
■回答率 64.0% (回収 64施設/配布 100施設)

■回答施設属性



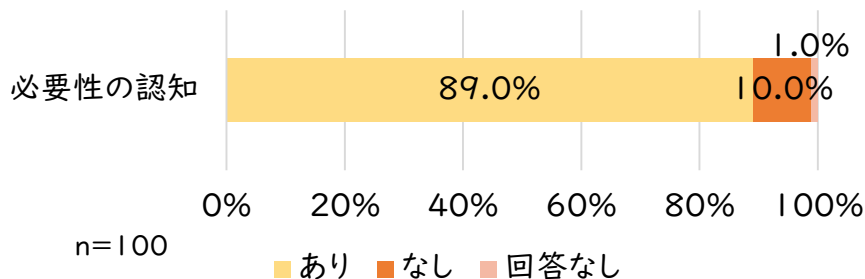
その他: 介護老人保健施設、通所介護、訪問介護、デイサービス、特別養護老人ホーム

■回答者の内訳



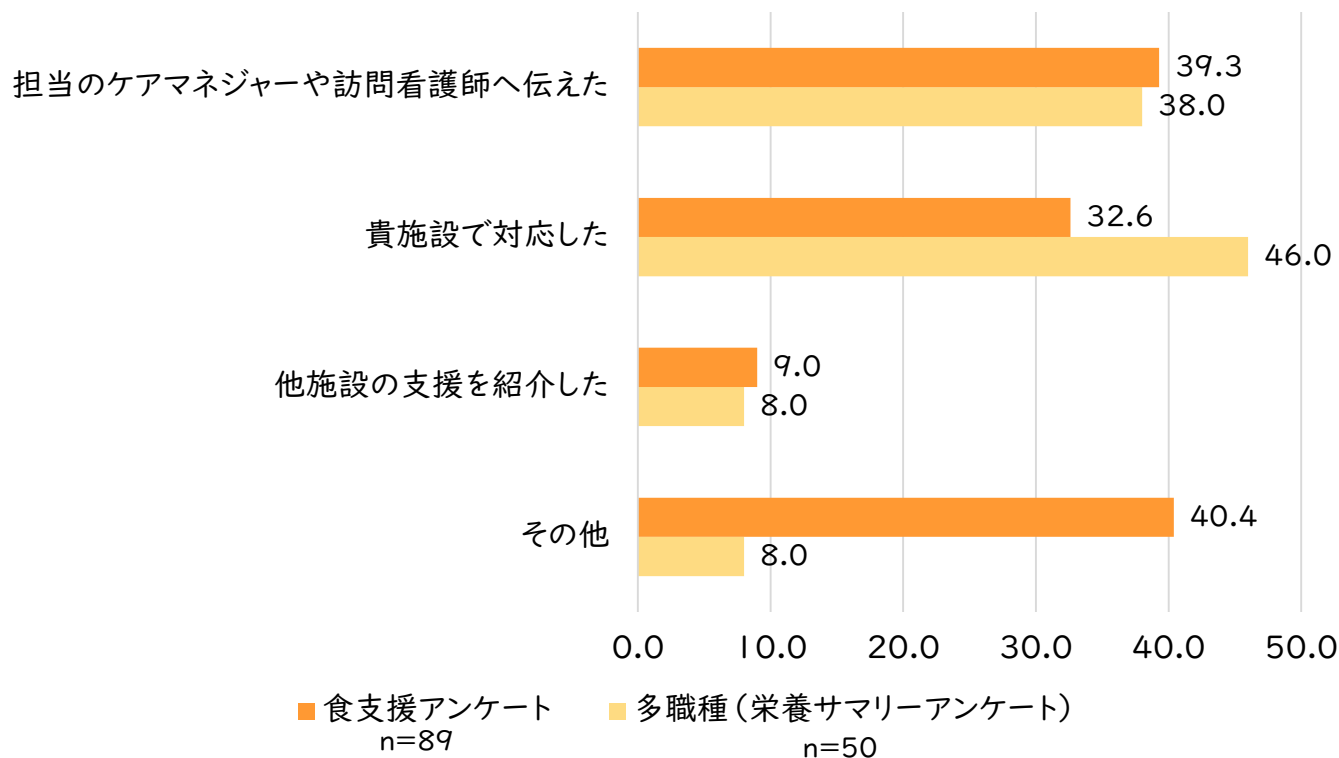
その他: 管理職、栄養士・管理栄養士、言語聴覚士、社会福祉士、生活相談員、保健師、理学療法士

1. 食支援が必要だと感じたことはありますか。



●89%の方が「食支援を必要である」と感じていた

→どのような対応をしましたか。



●「食支援」に関するアンケートでは、「栄養サマリー」に関するアンケートと比較して、「貴(自)施設」で対応するケースが少なかった。

●「食支援」に関するアンケートでは、「その他」と回答した割合が40.4%と高かった。

→どのような対応をしましたか。(その他詳細)

| | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 市販品、弁当、配食対応 | 高齢者向きの弁当、デイサービス利用 |
| | ご家族、ご本人様に口頭で伝え対応した |
| | 家族の協力 |
| | 宅配弁当。病院の栄養指導 |
| | 市販の介護食 |
| | 配食サービス |
| | 配食サービスによる治療食導入 |
| 在宅支援 | 配食と家族に報告 |
| | 管理栄養士さんの介入依頼 |
| | 居宅療養管理指導について |
| | ヘルパー、デイと情報共有 |
| | 食事や服薬については、本人、家族、デイサービス利用時は施設対応 |
| | 担当者会議で管理栄養士介入してもらった。 |
| | 地域包括支援センターに相談 |
| | 町の栄養指導につないだ |
| | 町の食支援へつなげた |
| | 包括支援センターに相談した。 |
| | 訪問栄養士に相談 |
| | 訪問介護で対応 |
| | 訪問介護員に伝え、飲み込みやすい食事形状を準備してもらった |
| 訪問介護士と共有 | |
| 訪問介護士に伝え、飲み込みやすい食事を準備してもらった。 | |
| 訪問介設で対応 | |
| 本人に食べ方や摂取方法の改善呼び掛け | |
| 病院 | 病院の栄養士に指導をお願いした |
| | 入院先、かかりつけ医での指導連携 |
| | 病院の栄養相談を紹介した |
| | 病院の管理栄養士からの電話対応 |
| | 病院の支援をうけた。 |
| | 病院へ |
| | 主治医と栄養士 |
| 歯科医師に相談した | |

「その他に記載された対応を大別すると3つに分けられ、

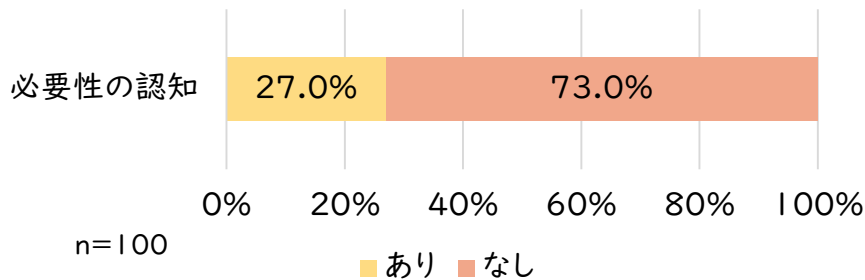
●市販品や配食サービス等の紹介

●在宅での支援へつながるよう、関係施設へつなぐ

●病院へ相談
があがっていた。

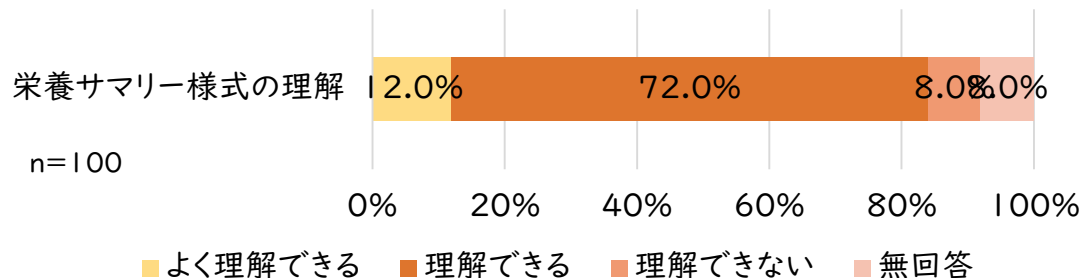
一部、栄養指導へつながっているケースもみられた

2. 「栄養サマリー」があることを知っていますか。



● 栄養士以外の職種に対して「栄養サマリー」の認知は進んでいない

3. 「栄養サマリー」を見て在宅療養者の状態や必要なケア等が理解できますか



● 84%の方が、「栄養サマリー」の様式を「理解できる」と回答している。

→ 在宅への運用拡大が可能

理解できない理由

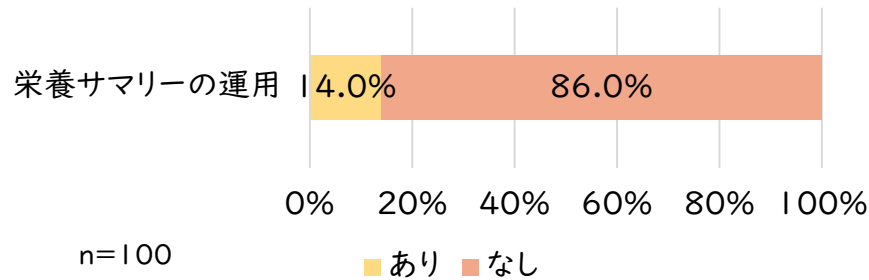
| | |
|------------|--|
| 学会分類に関すること | 学会分類 学会分類2021が分からない 栄養の必要量、食事内容の学会分類2021 栄養摂取手段・食事内容学会分類2021 必要量～摂取率。学会分類が何を示すのか？ |
| 対応方法に関すること | 最近、障害・訪問、サマリーを提供されない。口頭での連絡、経営栄養者には 訪看、サービスする目的者に応じ用紙が渡されるのかと思われます。 在宅に向けての栄養サマリーであれば、家族の理解が必要である。 状況は把握できますが、実際これを見て何をすればいいのかわかりませんでした。利用事業所の栄養士へつなぐのみ？ この項目でどのように、自宅で改善をしていきかたがわからない ストマ留置された方の食事内容アドバイスの支援 |

● 学会分類の詳細が分からない

● 栄養サマリーを受け取って、具体的にどのような支援につながれば良いか

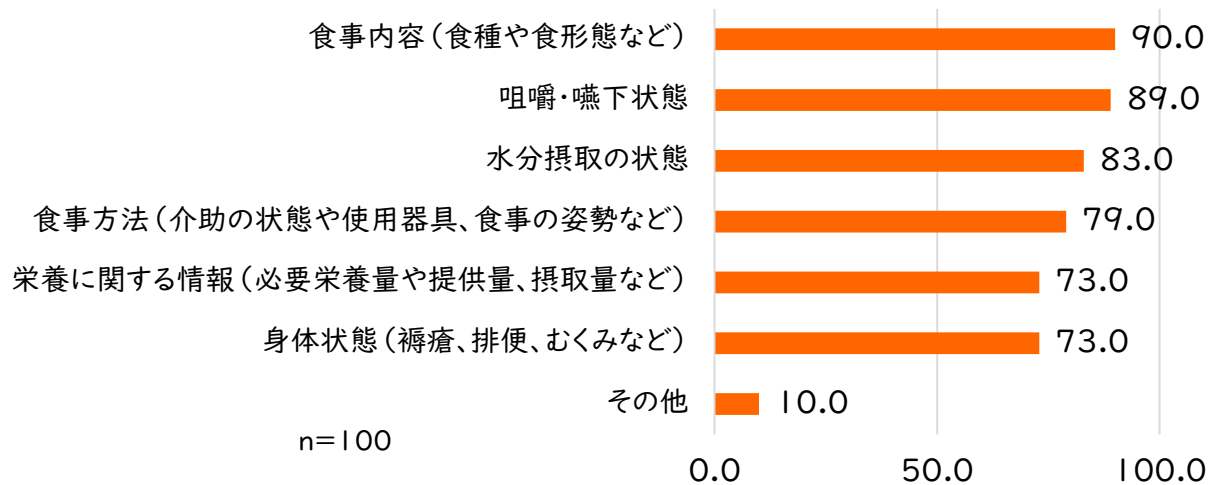
の2つに大別できた

4. 「栄養の情報に特化した情報提供書（看護サマリー除く）」を運用していますか。



●在宅に関わる職種では、「栄養サマリー」の認知率が低いこともあり、「栄養の情報に特化した情報提供書」の運用も進んでいない

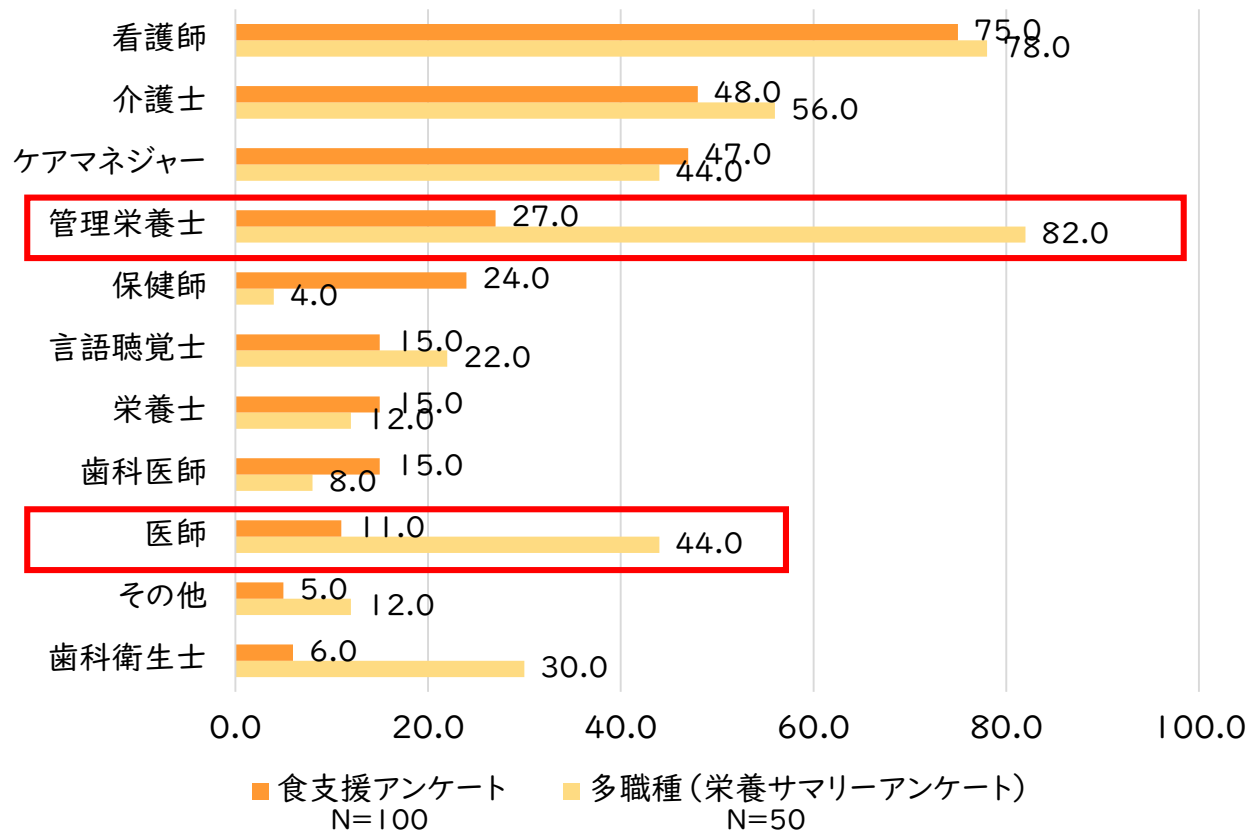
5. 施設・病院から在宅へ移る方の食支援にはどのような情報が特に必要ですか。



●在宅の食支援に対して必要と思われる情報は多い。

→看護サマリーにある情報だけでは網羅できず、在宅においても栄養サマリーの運用が必要である

6. 気軽に相談ができる専門職種を教えてください (複数回答可)



- 「栄養サマリー」の運用に関するアンケートと比較して、「食支援」に関するアンケートの対象者では、管理栄養士(27.0%)、医師(11.0%)と回答した割合が低く、身近にいない現状があった。
- どちらの対象者でも看護師、介護士、ケアマネジャーと回答した割合が高かった。

まとめ

- 在宅に関わる職種の方々においても、「食支援」が必要と感じている割合は約9割と高い。
- 施設、病院等と比べて「栄養サマリー」の認知率は27.0%と低い。
- 在宅に移る際に必要な情報は、多岐にわたっており、看護サマリーだけでカバーすることは難しい。
- 施設や病院等で勤める「その他職種」と比較して、「管理栄養士」や「医師」に相談しやすい環境ではない。



在宅においても、栄養の支援は必要である
食に関する支援の方法について、困った際に相談できる環境・しくみ
づくりが必要